

# 北海道師範塾 塾頭通信

## 「教師の道」

第817号 平成26年10月10日

### 虫歯からの解放（2）

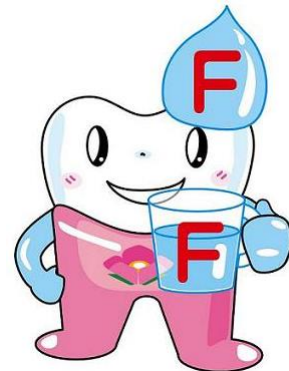
歯と口腔の健康は、生涯にわたり健康で質の高い生活を営む上で重要な役割を果たしていますので、北海道庁はこれまでも積極的に8020運動に取り組んでいます。

特に、平成21年6月に施行された「北海道歯・口腔の健康づくり8020推進条例」においては、効果的な歯科保健対策として保育所、幼稚園、小・中学校におけるフッ化物洗口の推進が盛り込まれていますので、各学校においては、フッ化物洗口に前向きに取り組んでいただきたいと思います。

フッ化物洗口というのは、フッ化ナトリウムの水溶液でうがいを行う事でむし歯を予防する方法で、第1大臼歯が生え始める前の4歳から開始し、第2大臼歯の生える14歳頃まで継続するのが効果的といわれています。

フッ化物洗口推進キャラクター「フッティ」君

しかし残念ながら、北海道においてはフッ化物洗口に反対する方々が少なくないのが現状です。そのため、北海道教育委員会の調査によると、平成26年3月末現在で、保育所、幼稚園、小学校、又は中学校でフッ化物洗口を実施している市町村は159となったものの、小学校での実施は114市町村405校、中学校での実施は37市町村74校に留まっており、こうした事も、北海道の児童生徒に虫歯が多い背景と考えられます。



フッ化物洗口に対しては、教師の負担が増える、安全性が保障されないといった反対の声がありますが、私には、反対のための反対に聞こえます。

「フッ化物洗口は絶対安全か」と問われれば、そもそも世の中に絶対といえるものがあるとは思えませんが、少なくとも、フッ化物洗口で事故があったという話を聞いた事はありません。にもかかわらず、フッ化物洗口に消極的な学校は、子ども達の健康に対して積極的に係わろうという意思が希薄なのではないかといわれても致し方ないと思います。

もう一つ問題と思うのは、保護者の姿勢です。

下表は、平成25年度の調査結果を基に、虫歯保有児童生徒の内、虫歯治療をした子ども達の割合を見たものですが、いずれの校種においても全国と比べて低いというのは、見逃す事の出来ない点です。

小学校		中学校		高等学校	
全道	全国	全道	全国	全道	全国
43.3	50.1	52.5	55.8	51.3	57.0

このように、虫歯の治療が十分でない背景は、治療費の問題もあるのかも知れませんが、何より、保護者の関心の低さが大きいのではないかと思います。

繰り返し申し上げているように、虫歯は、子ども達の発達に大きな影響を与えますので、学校においては、例えば、歯科検診の際虫歯が発見された場合に、保護者に対して虫歯を治療するよう伝える等、これまで以上に、家庭と連携しながら子ども達の歯の健康を守るための取り組みを進めていく必要があります。

私は、今のところ8020は辛うじてクリアしていますが、周りに虫歯は1本もないという人に出会うと、つくづく「後悔先に立たず」だなと思い知らされます。そんな思いを、子ども達には味わわせたくないものです。

(塾頭：吉田 洋一)